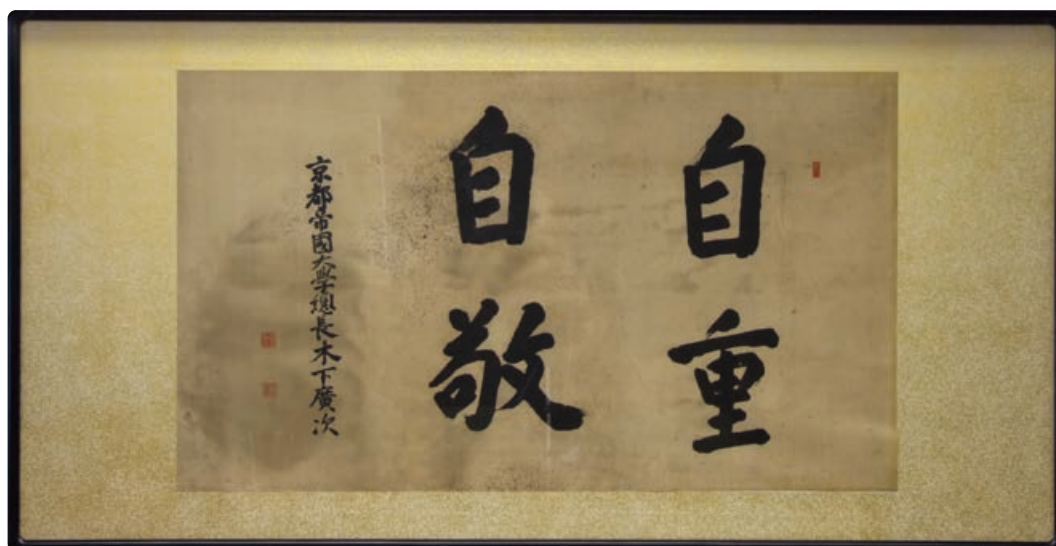


基本理念

学生の自主性を尊重した教育方針を採用したことで知られる本学の初代総長木下廣次は、本学創立後最初の入学宣誓式において、「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べ、大学人の持つべき自主性の意義を説いています。この自主性を重んじる精神は、本学が大切にする「自由の学風」として今日まで承継されてきました。



京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。



基本理念制定の経緯は、ホームページでご覧いただけます。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/history/ideals/basic/how.html>

京都大学の概要

京都大学の特徴

京都大学は日本を代表する総合大学として10学部に加え充実した大学院や全国一を誇る研究所群を擁し、多数の海外拠点や学術交流協定等を通じて幅広い国際ネットワークを構築しています。また、教育・研究活動を支える日本有数の充実した環境のもと、「対話を根幹とする自学自習」によって創造の精神を涵養する世界最高水準の学びの場を提供しており、多くの卒業生が学術分野のみならず、産業界、官界などさまざまな分野で活躍しています。

本学の研究の多様性とユニークさは群を抜いており、これらの先端的研究を担う研究者たちが連携して、全学体制で初年次からの基礎・教養教育も行うのが京都大学の特徴です。



大学案内冊子「知と自由への誘い ～京大は、おもしろい。～」は、ホームページでご覧いただけます。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/undergrad/admission>

京都大学の基本データ

(令和元年5月1日現在)



学生数

学部学生

13,094名

大学院生学生

[修士] **5,072**名 [博士] **3,671**名 [専門職学位] **734**名



職員数

全体

5,467名

教員

2,660名

事務職員・技術職員 等

2,807名



国際交流

外国人教職員

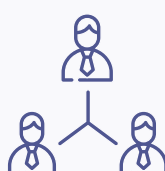
443名

外国人留学生

2,732名 **113**カ国・地域

大学間学術交流協定

183件 **51**カ国・地域



組織

学部・研究科等

10学部

18研究科

13附置研究所

海外拠点

62拠点 (26カ国・地域)

土地面積

5,057万㎡
(国内 + 国外)

建物面積

136万㎡



受賞者数

ノーベル賞
受賞者

10名

本庶 佑 (2018年 生理学・医学賞)
赤崎 勇 (2014年 物理学賞)
山中 伸弥 (2012年 生理学・医学賞)
小林 誠 (2008年 物理学賞)
益川 敏英 (2008年 物理学賞)
野依 良治 (2001年 化学賞)
利根川 進 (1987年 生理学・医学賞)
福井 謙一 (1981年 化学賞)
朝永 振一郎 (1965年 物理学賞)
湯川 秀樹 (1949年 物理学賞)

ラスカー賞
受賞者

5名
森 和俊 (2014年)
山中 伸弥 (2009年)
増井 禎夫 (1998年)
西塚 泰美 (1989年)
利根川 進 (1987年)

フィールズ賞受賞者 **2**名

森 重文 (1990年)
廣中 平祐 (1970年)

ガウス賞受賞者 **1**名

伊藤 清 (2006年)

チャーン賞受賞者 **1**名

柏原 正樹 (2018年)



詳細は京都大学概要2019をご覧ください。

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/ku_profile

京都大学の歴史

ゆかりのある
ノーベル賞受賞者とともに

京都帝国大学創設とともに開設／理学研究科・理学部 工学研究科・工学部

現在の理学部・理学研究科および工学部・工学研究科は京都帝国大学の中核として創設されました。各分野において独創的な研究成果を数多くあげ、湯川 秀樹氏、朝永 振一郎氏、福井 謙一氏、利根川 進氏、野依 良治氏、益川 敏英氏、小林 誠氏、赤崎 勇氏といったノーベル賞受賞者をはじめとして、国際的舞台で活躍する多くの優れた研究者が研究を行ってきました。

1897年理工科大学開設／1914年理科大学と工科大学に分かれる／1919年理学部、工学部に改称（学部制）／1953年理学研究科、工学研究科設置／2003年桂キャンパス開学

世界トップレベルの研究の発信／医学研究科・医学部

医学研究科・医学部は世界トップレベルの研究の発信に加え、広い科学的見識と優れた研究能力によって医学・医療の発展の牽引力となり世界に向けて独自の発信をなし得る次世代のグローバルリーダーの育成を使命としています。2018年には元医学研究科長である本庶 佑氏がノーベル生理学・医学賞を受賞しています。

1899年医科大学開設／1919年医学部に改称（学部制）／1955年医学研究科設置

1897年
京都帝国大学 創設

1925年
時計台竣工

1947年
京都大学に改称

1949年
新制京都大学 設置

1897年

理工科大学 開設

1899年

法科大学・医科大学 開設

1906年

文科大学 開設

1914年

理工科大学が工科大学・理科大学に分かれる

1919年

経済学部 設置・学部制
（分科大学は学部へと改称）

1923年

農学部 設置

1926年

化学研究所 設置

1939年

人文科学研究科 設置



京都大学時計台（1925年竣工当時）



京都大学教養部構内（1967年）

1949年

教育学部設置・分校（後の教養部）設置

1951年

防災研究所 設置

1953年

新制大学院（農学研究科・薬学研究科・
工学研究科・文学研究科・教育学研究科・
法学研究科・経済学研究科・理学研究科）
を設置

1954年

分校を教養部に改称（学内措置による）

1955年

医学研究科 設置

1960年

薬学部 設置

1962年

経済研究所 設置

物理学賞

湯川
秀樹



京都帝国大学理学部卒業後、京都帝国大学理学部講師、同大学理学部教授、京都大学基礎物理研究所の初代所長などを歴任。1934年「中間子論」の論文を発表。素粒子論の足掛かりをつくった。1949年日本人として初めてノーベル物理学賞を受賞。



福井
謙一

化学賞

京都帝国大学工学部卒業後、京都帝国大学工学部講師、同大学工学部助教授を経て、1951年に京都大学工学部燃料化学科（後の石油化学科）教授。京都工芸繊維大学長、財団法人基礎化学研究所の初代所長などを歴任。「フロンティア軌道理論」を発表し世界の化学界に多大な影響を与えた。1981年に日本人として初めてノーベル化学賞を受賞。

化学賞

野依 良治

京都大学工学研究科修士課程修了後、京都大学工学部助手、名古屋大学教授、理化学研究所理事長などを歴任。「BINAP（バイナップ）」という左手型・右手型の物質を作り分けることのできる触媒を用いた不斉水素化を開発し、医薬品、農薬、香料など製造産業や食品産業の発展に大きく貢献。2001年にノーベル化学賞を受賞。

物理学賞

朝永 振一郎

京都帝国大学理学部卒業後、東京文理科大学教授、東京教育大学教授、同大学学長などを歴任。「超多時間理論」「くりこみ理論」など多岐にわたる理論物理学の世界的業績を遺した。1965年にノーベル物理学賞を受賞。

生理学・医学賞

利根川 進

京都大学理学研究科を経てカリフォルニア大学サンディエゴ校へ留学。カリフォルニア大学サンディエゴ校博士課程修了。米ソーック研究所・ダルベッコ研究室でポスト・ドクター、スイス・バーゼル免疫学研究所主任研究員、マサチューセッツ工科大学教授などを歴任。哺乳動物が示す免疫現象を世界で初めて遺伝子レベルで解析し、分子生物学の発展に大きく寄与。1987年にノーベル生理学・医学賞を受賞。

本学は、日本を代表する総合大学として質の高い高等教育と先端学術研究を推進し、国内外から高い評価を獲得してきました。今回は今もなお「新しい知の創造」を目指して発展・成長し続けている本学の学部・研究科・研究所の軌跡を、京都大学にゆかりのあるノーベル賞受賞者とともに、ご紹介します。

我が国で初の全国共同利用研究所／基礎物理学研究所

湯川秀樹氏のノーベル物理学賞受賞を記念し、「素粒子論その他の基礎物理学に関する研究」を目的とし、我が国で初の全国共同利用研究所として創設されました。2008年には、本研究所第7代所長の益川敏英氏がノーベル物理学賞を受賞しています。

1952年湯川記念館設置／1953年基礎物理学研究所発足



吉田キャンパスの時計台と同じデザインの時計盤が設置された桂キャンパスのモニュメント(時計台)

本邦発の技術／iPS細胞研究所

世界初のiPS細胞に特化した先駆的な中核研究機関としての役割を果たす等の理念のもと設置されました。設置2年後の2012年には所長の山中 伸弥氏がノーベル生理学・医学賞を受賞しています。

2008年iPS細胞研究センター設立(物質-細胞統合システム拠点*内)／2010年iPS細胞研究所に改組 ※物質-細胞統合システム拠点は文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」に採択されたことに伴い設置されました。

2004年 国立大学法人化

1963年	1967年	1975年	1991年	1992年	1993年	1996年	1998年	1999年	2002年	2003年	2004年	2006年	2007年	2013年	2016年	2017年
教養部設置(文部省令による)、 原子炉実験所(現複合原子力科学研究所)、 数理解析研究所設置	霊長類研究所設置	医療技術短期大学の開設	人間・環境学研究科設置	総合人間学部設置	教養部廃止	エネルギー科学研究科設置、 エネルギー理工学研究科 (旧原子エネルギー研究所・ ヘリオトロン核融合研究センター)設置	アジア・アフリカ地域研究研究科・ 情報学研究科設置	生命科学研究所設置	大学院地球環境学舎・学舎設置	桂キャンパス開学・時計台記念館竣工 医学部保健学科設置	生存圏研究所(旧木質科学研究所・ 宙空電波科学研究センター)設置	経営管理研究部・経営管理教育研究部設置	公共政策連携研究部・ 公共政策教育研究部設置	医療技術短期大学の閉校	大学院総合生存学館設置 再生医科学研究所設置 再生医科学研究所・ (旧ウイルス研究所)	東南アジア地域研究研究所 (旧東南アジア研究所・ 地域研究統合情報センター)設置 ウイルス・再生医科学研究所

「自由の学風」の継承・発展へ

物理学賞

益川 敏英

名古屋大学理学研究科博士課程修了後、名古屋大学理学部助手、京都大学理学部助手を経て、京都大学基礎物理学研究所教授、同所長を経て、京都大学名誉教授。京都産業大学益川塾教授・塾頭、名古屋大学特別教授、名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構機構長などを歴任。「CP対称性の破れ」の起源を解明。2008年にノーベル物理学賞を受賞。

物理学賞

赤崎 勇

京都大学理学部卒業後、神戸工業(現、富士通)に入社、名古屋大学助手、同大学講師、同大学助教授、同大学教授、同大学名誉教授、名城大学教授などを歴任。高品質窒化ガリウム(GaN)系窒化物単結晶の創製に関する技術を開発し、世界初の高輝度青色発光ダイオード(青色LED)を実現させる。2014年にノーベル物理学賞を受賞。

生理学・医学賞

本庶 佑



京都大学医学部卒業、京都大学医学研究科博士課程修了後、東京大学医学部助手、大阪大学医学部教授、京都大学医学部教授を経て、京都大学高等研究院 副院長・特別教授。免疫抑制分子であるPD-1分子を同定し、世界で初めてがん治療の応用に成功。2018年にノーベル生理学・医学賞を受賞。

物理学賞

小林 誠

名古屋大学理学研究科博士課程修了後、京都大学理学部助手、高エネルギー物理学研究所教授、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授、同所長、同機構名誉教授を経て、同機構特別栄誉教授。独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター所長、名古屋大学特別教授などを歴任。「CP対称性の破れ」の起源を解明。2008年にノーベル物理学賞を受賞。



©Nobel Foundation Photo: Ulla Montan.

神戸大学医学部卒業、大阪市立大学医学研究科修了後、同大学医学部助手、奈良先端科学技術大学院大学教授、京都大学再生医科学研究所教授、京都大学物質-細胞統合システム拠点教授を経て、京都大学iPS細胞研究所長。ヒトiPS細胞(人工多能性幹細胞)の樹立に成功し、再生医学に新たな道を切り開く。2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞。

生理学・医学賞

山中 伸弥